



おおくぼ

学校教育目標 ゆめにむかって かしこく やさしく たくましく
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

令和2年8月17日第5号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

男子119名女子111名 計230名

発想を変える

校長 金子 要一

夏休みが終わりました。楽しい思い出はできたでしょうか。今日からまた学校が始まります。休み気分、そして生活のリズムを学校生活にふさわしいものに切り替えましょう。

まだまだ暑い日が続きます。そこで、次のことを考えてみましょう。

あなたは、太陽がギラギラ照りつける校庭で**体育の授業**をしてきました。そして、たくさん汗をかき、**のどもカラカラ**です。そんな時に、あなたの目の前に**水の入ったコップ**が差し出されました。その水の量は、コップの**半分ほど**です。この時あなたは思うでしょう。「のどがカラカラなのに、これだけしか入っていないのか。足りないな。」と思いますか。それとも「のどがカラカラなので、水が飲めるだけでありがたい。」と思いますか。

これは、コップに水が半分入っている状況で、「コップの**空の部分**」に注目するのか「**水**」に注目するのかで心の持ち様が変わってくるのです。どちらに注目しても**水の量は同じ**です。でもそこで、「半分しかない」のか、「半分もある」のか、その考え方で心持（こころもち）が変わるのです。**前向きな捉え方**（とらえ方は「半分もある」でしょう。反対に**後ろ向きな捉え方**は「半分しかない」でしょう。一つの物事に出くわした時、前向きに良くとるか、後ろ向きに悪くとるか、ということです。こういうご時世です。やはり、ものごとをマイナスに捉えるのではなく、前向きに、**プラスに捉える心の余裕**を持ちたいものです。と言うのも、私にも思ったことがあったからです。

本校は、さいたま市の“学校の新しい生活様式”に従い則（のっと）り、1学期間、給食の配膳を担当はもちろん、それ以外の**教職員も総出**で各クラスに分かれて行いました。私もやりました。給食の時間になると急いで身支度を整え、教室に向かいます。石鹸で洗った手をもう一度アルコールで消毒し、準備完了です。食器に盛り付ける食材は、主食やおかずを含め平均3品ほどです。その他に、牛乳やストロー、時にスプーンも加わり、これらをお盆に載せます。さらに、子どもたちの手にも消毒液を噴霧します。この作業を、2～3人で行います。今まで給食の配膳は、子どもたちの給食当番がやっていました。ですから、私を含めた担任以外の教職員にとって**新しい仕事一つ増えた**こととなります。

私は今まで、講話など全校児童の前で、「あいさつをしましょう。」「お世話になったら感謝しましょう。」と話してきました。でもそれは、「講話」としてマイクを通して呼び掛けたものでした。子どもたちとの距離も近くありません。しかし、今回の給食を契機に**実の場で直接**子どもたちにそのことを指導することができたのです。

給食の配膳を始めた頃のことです。お椀などがのった**お盆**を子どもに渡した時、小さな声で「ありがとうございます。」という声が聞こえたのです。私は思わず「えらいねえ。よく言えました。」と言いました。すると、次の子も、また次の子も「ありがとうございます。」と続いたのです。言い忘れる子がいると私から「うれしいことをしてもらったら、お礼を言おうね。」と言うこともありましたが、今ではみんな自然に言葉が出てきます。

「一つ増えた」と感じた仕事とは、給食の配膳を通して子どもたちに**感謝の気持ち**を表すことの大切さを伝えることでした。期せずして、全校で同じことが起きていました。

